

然にはあらじれど、

〔日本書紀垂仁六年〕三年三月、新羅王子、天日槍來歸焉。將來物○申并七物則藏于但馬國。常爲神物也。

〔但馬考制度〕國名

此國ノ名、古書ニ載ルトコロ、其文字同ジカラズ、舊事紀ニ但遲麻トシ、古事記ニ多遲麻トシ、日本紀ニ田道間トシ、舊事大成經ニハ谿間トス、タマタデマト云ノミゾ、古來定リタル本名ニシテ、其他ハ詞ノ通ズル文字ヲ用ヒタルナリ、  
明ノ茅元儀ガ武備志ノ譯語ニハ、達什麼トカケリ、コレハ此方ノ詞ヲ華音ニ寫シテ、萬葉假名ニシタルナリ、

〔諸國名義考下〕但馬

和名抄に但馬太知萬國府、名義は總國風土記に、但馬國者、往昔黒田大連所領行也、山路多而通行在子馬故名達馬也、今謂但馬則其訛也とあり、又は田路端前後の中間の意にて、田路間にてはあらざるか、こはこ、ろみに云のみ、又思ふに橋の婆を麻にかよはして、奈を略きたるならむ、新羅國の王子天日矛この皇國にきたり、この國に留り子孫つゝきしこと、國史に見えたり、代々但馬某と號たる中に、田路間守ぞ田路間の始にて、その四代以前より但馬某と號しは、後を前にめぐらして、國史には玄るされたるなるべし、そのよしは古事記、玉垣宮段に、天皇以三宅連等之祖名多遲麻毛理遣常世國、令求登岐士玖能迦能木實、故多遲摩毛理遂到其國採其實云々、是今橋者也云々、○中とあるなどを思へば、田路間守は橋守にてはあらざるか、姓氏錄左京諸蕃新羅の部に、橋守三宅連同祖天日梓命之後也とあり、されど古事記傳には、橋は多遲麻花なるべしとあり、かれば我推量はうらうへの違ひなり、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程